

氏名	外山 堅太郎
学位の種類	博士 (医学)
学位記番号	乙第 1265 号
学位授与の日付	平成 26 年 3 月 28 日
学位授与の要件	学位規則第 3 条第 1 項第 4 号に該当

学位申請論文タイトル及び掲載誌

Eicosapentaenoic acid combined with optimal statin therapy improves endothelial dysfunction in patients with coronary artery disease

エイコサペンタエン酸と至適スタチン治療との併用療法は冠動脈疾患患者の内皮機能障害を改善する

Cardiovascular Drugs and Therapy 2013 年 10 月 25 日 受理

学位審査委員 (主査) 教授 松本 万夫

(副査) 教授 山本 啓二、准教授 井上 郁夫、講師 魚住 尚紀

論文内容の要旨

目的: エイコサペンタエン酸(以後 EPA)は、血管内皮機能を増強し冠動脈疾患患者の臨床転帰を改善させることが報告されている。本研究の目的はスタチンによる至適脂質低下療法を受けている冠動脈疾患患者において、EPA が残存する血管内皮機能障害を改善するかどうかを検討することである。

方法: スタチンによる薬物療法を受けており、血清低比重リポ蛋白コレステロール濃度が 100 mg/dl 未満の 80 人の冠動脈疾患患者を、スタチンに 1,800 mg/日の EPA 製剤を追加する群と(EPA group, n = 40) スタチン治療単独群(Control group, n = 40)の 2 群に無作為割り付けした。各脂質プロファイルと Flow-mediated dilation(以後 FMD)を、割り付けの直前と 3 ヶ月以上の治療期間後の 2 つの時点で測定した。また本検討では割り付け前の FMD が 6%未満と血管内皮機能障害を有する患者のみを対象とした。

結果: 平均 5.2±1.7 ヶ月間の治療の結果、EPA group では血清 EPA 濃度と EPA に対する血清アラキドン酸(AA)濃度の割合 (EPA/AA 比)は有意な増加を示した(血清 EPA 濃度: 62.5±38.1 から 159.8±53.8 μ g/ml、EPA/AA 比: 0.45±0.34 から 1.20±0.55、ともに $p < 0.01$)。また EPA group において血清トリグリセリドは有意に減少した (150.7±92.9 から 119.3±60.7 mg/dl、 $p = 0.02$)。一方、対照群では有意な変化は認められなかった。FMD は、EPA 群で有意な改善を示した(2.6±1.6 から 3.2±1.6%、 $p = 0.02$)のに対し、Control 群で有意な変化は認められなかった(2.7±1.6 から 2.4±1.7%、 $p = 0.29$)。

結論: EPA はスタチンによる至適脂質低下療法を受ける冠動脈疾患患者の血管内皮機能を増強し、FMD を改善した。